

# 先進地調査等報告書

令和6年7月24日

天童市議会議長様

会派名 清新会  
氏名 鈴木照一

下記により、会派において調査（視察）が終了したので報告します。

## 記

期 間	令和6年7月4日（木） から 令和6年7月5日（金） まで
調査（視察）先 調査項目	1. 秋田県美郷町 千畑土地改良区 ○田んぼダム事業について 2. 宮城県大衡村 ○大衡村の企業誘致活動について
調査（視察）目的	1. 国のモデル事業として取り組んでいるスマート田んぼダムの現況を学び、本市が取り組む田んぼダム事業の実施面積拡大に向けた参考とする。 2. 人口5000人規模の自治体が国内外の主要な企業を誘致できた経緯と企業誘致後の課題等を学び、本市の企業誘致の参考とする。
調査（視察）内容	1. 秋田県美郷町 千畑土地改良区 <b>【美郷町千畑土地改良区概要】</b> ○賦課面積 1,805ha（畑53ha含む） ○組合員数 1003名 

**【スマート田んぼダム実証事業概要】**

- 大仙美郷地区の下流域において平成29年7月の豪雨等で河川の氾濫や集落での浸水被害が多発し、秋田県では雄物川圏流域治水協議会を立ち上げ、流域一帯での総合的な治水計画を検討していた。
- 千畑土地改良区では、スマート田んぼダム（9.2ha）、従来田んぼダム（10.3ha）、対象ほ場（5.7ha）を設定し、自動給排水システム等を整備していた。
- 用排水路・用排水柵は既施設を活用し事業費の低減を図る。
- 田んぼダムの管理と関係農業者への連絡調整は、秋田県、大仙市、美郷町、美郷町千畑土地改良区、農業関係者が密に連携し情報共有している。
- スマート田んぼダム現地調査（調査・調整事業）  
実施面積（25.2ha）事業費（300万円）
- スマート田んぼダム整備事業（自動給排水システム等整備）  
実施面積（19.5ha）事業費（1,700万円）

**【従来田んぼダム（比較ほ場）】**

- 田面排水柵の調整板（ウレコート板）は年中設置している。  
R3年度（46カ所）⇒R6年度（約450カ所／1200枚）

**【スマート田んぼダム（実証ほ場）】**

- クボタ製のWATARAS（ワタラス）を導入し、田んぼダムとスマート農業を融合。
- 水管理は携帯電話やPC栽培スケジュールを設定・管理し、1cm単位で水位を自動調整（随時設定変更可）。
- 大雨予想時の前日などに一括一斉排水の遠隔操作を行い、ほ場の水位をゼロにして貯水能力を高める（水位などは携帯電話などでリアルタイムに確認できる）。
- 用水側給水システム20機（水位制御システム、スマートゲート、通信中継機等）
- 排水側排水システム38機（水位制御システム、スマートゲート、通信中継機等）



**【実証による比較結果】**

○水管理などの労働力においてスマート田んぼダム実証ほ場が従来の田んぼダム区域より約40～60%軽減されている。

○坪刈りの実施により収穫量において450～520kg/10aと差が生じたが、施肥設計（肥料銘柄、施肥量、施肥方法、土づくり肥料の有無、追肥の有無）や植栽密度が異なるため、単純に比較することはできなかったが、田植日が異なっても出穂期はほぼ同じだったことから、水管理による生育には影響がなかったことが検証された。



**【今後の課題】**

○田んぼダムを実施するために

- ・ある程度の畦畔や溝畔の高さ（35～40cm）が必要。
- ・強度も必要なので造成から数年が経過している場合は締固めや再形成等が必要。
- ・下流区域への配慮と田んぼダムの効果等を広く伝えるための啓蒙活動が必要。
- ・貯水したことにより畦畔崩落等が生じた場合の処置方法の取り決め。
- ・転作による畑地化されたほ場での取り組みの可否について検討が必要。

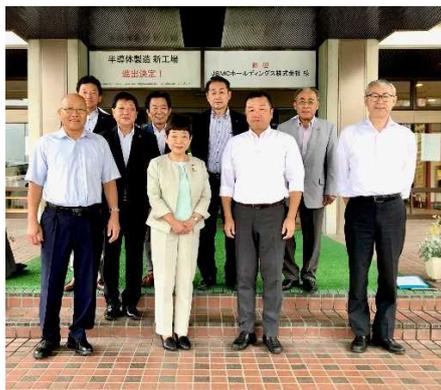
○スマート田んぼダムを実施するために

- ・施設整備費用が高額なため補助事業等の確保が必要。
- ・各ほ場の栽培形態の把握が必要なので同じ経営体での団地化等、円滑な水管理が必要。
- ・ランニングコスト（通信費、バッテリー等の消耗品）の検証。
- ・スマートフォン等の操作に慣れるまで時間を要する。
- ・取組面積を拡大することにより貯水能力を高め下流への排水ピークを遅延させることに期待を持てるが、下流区域の排水能力の検証が必要。
- ・給排水システムの維持費は通信費（令和6年度税込8,800円）のみだが、今後はバッテリー交換（本体耐用年数10年）等が必要になる。

2. 宮城県大衡村

【大衡村の概要】

- 人口 5, 520人 (令和6年5月末)
- 世帯数 2, 106世帯
- 面積 60.32km<sup>2</sup>
- 高齢化率 30.9% (令和4年度末)
- 製造事業所 46事業所/5, 338人
- 製造出荷額 約4, 000億円 (宮城県内3位)
- 昼夜間人口比率 182.9% (宮城県内1位、全国18位)
- ・(昼間) 10, 700人/ (夜間) 5, 849人 (令和2年国勢調査)



【アクセス】

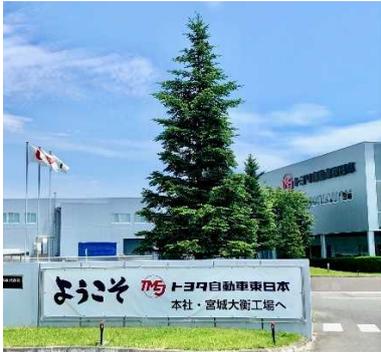
- 東北自動車道 仙台港から30km (30~40分)  
仙台空港から48km (50~60分)
- 国道4号線 仙台市中心部から25km (50~60分)

【工業団地の変遷】

- 昭和49年 (1974年) 仙台北部中核都市構想発表 (宮城県)
- 昭和59年 (1984年) 第一仙台北部中核工業団地造成
- 昭和63年 (1988年) 第一仙台北部中核工業団地一部分譲開始
- 平成9年 (1997年) 第二仙台北部中核工業団地造成
- 平成13年 (2001年) 第二仙台北部中核工業団地一部分譲開始
- 平成15年 (2003年) すかいらく仙台MDセンター竣工
- 平成19年 (2007年) セントラル自動車(株)本社・工場移転決定

【優遇制度】

- 大衡村企業立地促進奨励金
  - ・対象地域 第二仙台北部中核工業団地及び大衡工業団地
  - ・補助金額 用地取得費×A又はB又はC (上限3億円)
    - A: 製造業 25%
    - B: 物流等 (建築3, 000m<sup>2</sup>以上) 20%

	<p style="text-align: center;">C : 物流等でB以外 15%</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 交付時期 建築着工から5年間で分割</li> </ul> <p>○みやぎ企業立地奨励金</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 投下固定資産額×3～10% (上限40億円)</li> <li>・ 固定資産額と雇用者数で交付率変動</li> </ul> <p>【工業団地内インフラ (用水、電力)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○用水 上水道、工業用水道</li> <li>○排水 公共下水 (汚水、雨水)</li> <li>○電力 特別高圧</li> </ul> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   </div>
<p style="text-align: center;">感 想</p>	<p>1. 農林水産省での研修を契機に、東北農政局からスマート田んぼダムの先進事例として紹介された秋田県美郷町の千畑土地改良区の取り組みを、秋田県の担当職員に同席いただき実施現場で説明をいただいた。ほ場の水位管理と自動給排水システムは間違いなく農作業に係る労働時間の削減と作業時間の削減になる。貯水したほ場の収穫量が減収とまらないデータが示されると実施面積はさらに拡大するものと考える。</p> <p>平成29年7、8月の豪雨により発生した河川の氾濫や下流地域の集落での浸水被害があったこともあり、田んぼダムへの理解を得やすい状況にあったが、さらに実施面積を拡大するためには国の補助制度は必須だろう。費用負担などの課題を解決できれば理解を得られやすくなるのではないかと。想定以上の豪雨による被害を軽減させるために、田んぼダムの実施面積を拡大できれば効果も比例して大きくなるものと考える。本市も関係する農業団体や山形県と緊密に連携し事業を推進すべきだ。</p> <p>2. セントラル自動車(株)が操業し令和9年頃に台湾半導体大手のPSMCの立地がきまった宮城県大衡村。人口5000人の村がどんな方法で誘致活動したのか伺った。村が主体的に進めたというよりは、宮城県土地開発公社や地域振興整備公団が連携して強力に進めた結果のようだ。特に県知事の積極的な売り込みがあったとのこと。大衡村も会社四季報からランダムにDMを送り営業を展開しているとのこと。いずれにしても全国の数</p>

	<p>多くの自治体の工業団地の中から選ばれるということは凄いことだ。すでにセントラル自動車(株)の進出により関連企業が追っかけるように立地し、地区内に関連企業のクラスターが形成されている。今後台湾のP SMCが立地することになったら、また新たな企業クラスターが形成させることになるのだろう。</p> <p>これほど企業立地が進めば新たに宅地造成や生活関連インフラの整備が必要になると考えるが、実際のところ宅地造成はしているが積極的に進めているようには感じられなかった。昼夜間人口比率が182.9%で、昼間は10,700人で夜間は5,849人というデータから、幹線道路の国道4号線は朝晩の交通渋滞が発生していて、渋滞解消が喫緊の課題となっている。</p> <p>天童市は独自の企業誘致を進め計画した工業団地用地は、分譲後に比較的早く売却が完了しているが、現在進めている工業団地整備の早期完成を目指し、今後も積極的な誘致活動を展開することを期待したい。</p>
--	--

## 令和6年度清新会視察等報告書

令和6年7月10日

議長 遠藤 敬知 様

水戸 保

### ○ 7月4日(木) 秋田県 美郷町千畑土地改良区

#### 「田んぼダム事業について」

平成29年に土地改良の折、1区画1ha規模の大きいほ場に整備した所を見せてもらったが、東北地方では類を見ない見事な田んぼであった。

田んぼダムを実施するには受益者の理解を得ることが重要な課題であるが、令和2年7月と8月の2度の豪雨により被害を目の当たりにした為、危機感をもち受益者の抵抗はなかったという。

そこで、従来の板のみの田んぼダムほ場、スマート田んぼダムほ場、田んぼダムのないほ場を実証実験して、生育・収穫量に差はほとんどなかったという結果を得た。

スマート田んぼダムはスマホで調整できるから、夜中でも家から稼働でき、ほんとうに便利であるが、このほ場も国の実施ほ場としてやれたのである。

これからやろうとすれば、施設投資が高額なため国の補助事業の確保が必要と感じた。

### ○7日5日(金) 宮城県 大衡村

#### 「大衡村の企業誘致活動について」

以前、ある記事を見て『仙台市から地理的に北方に離れている大衡村・大和町周辺に大手の企業が集積しているのはどうしてか』という問いに企業側の方では『地元の熱意があるから行くんです』と載っていたのに興味があったので大衡村で尋ねてみた。

村独自ではなく宮城県が率先して、指導・補助をしているというので納得したが、やはり県全体の発展を考えるならば本県もそうすべき事を望む。

今、大衡村独自では見込みのある企業にアンケートを出して、脈がありそうな会社に訪問して説得する積極さが誘致の秘訣と感じ本市も見習うべきである。

地元住民の就業は1%と少ないが、大衡村の考え方は人口増や雇用増のための企業誘致ではないとの事が本市との違いか。

# 先進地調査等報告書

令和6年7月25日

天童市議会議長 様

会派名 清新会

水戸 芳美

下記により、会派において調査（視察）が終了したので報告します。

## 記

期 間	令和6年7月4日（木）～令和6年7月5日（金）まで
調査（視察）先	視察地 1、 秋田県美郷町 2、 宮城県大衡村
調査項目	◎視察内容 1、・「美郷町千畑土地改良区の田んぼダム事業」について 2、・「大衡村の企業誘致」について
調査（視察）感想	■ 1、秋田県美郷町土地改良区の田んぼダム ●千畑土地改良区の概要 ・賦課面積：4,805.1ha（うち畑：52.7ha） ・組合員数：1,003人 ・総代数：43名 ・理事：9名 ・監事：3名 ・職員：7名 ●スマート田んぼダム実証事業計画概要 1、計画の概要 ◎大仙美郷地区は、秋田県仙北郡美郷町の1級河川雄物川水系丸子川の左岸に位置する水田地帯であり、平成29年に着手した県営畑谷中央地区農地整備事業により、1ha区画の大区画化と用排水路整備がなされた。 ◎本地区の下流の高梨地区では、平成29年7月の梅雨前線豪雨等

で河川の氾濫や、集落での浸水被害が発生しており、秋田県では雄物川圏域流域治水協議会を立ち上げ、流域一帯での総合的な治水計画を検討している。

- ◎本地区では、スマート田んぼダム 9.2ha、従来型田んぼダム 10.3ha、対象ほ場 5.7ha を設定し、必要な自動給排水システム等整備を実施する。用排水路・用排水柵については、既設施設を活用し事業費の低減を図る。
- ◎本地区を含む一体の地域では、以前より従来田んぼダムの取り組みを実施していたが、本事業を契機として秋田県及び関係市町村が主体となって田んぼダムの普及・推進を図ることとしており、令和 3 年度以降ほ場整備実施地区を中心に規模を拡大していく予定としている。

## 2、 過去の基盤整備状況

- ◎農業競争力強化農地整備事業畑屋中央地区、
  - ・工期 H29～R4 予定、
  - ・区画整理：291.5ha
  - ・用排水一式
  - ・暗渠排水溝工：291.5ha
  - ・一筆：1ha

## 3、 実施面積

- ◎スマート田んぼダムほ場：9.2ha
- ◎従来田んぼダム実施ほ場：10.3ha
- ◎対象ほ場：5.7ha
- 合計：25.2ha

## 4、 事業内容

- ◎スマート田んぼダム現地調査
  - ・調査・実施事業：実施面積 25.2ha、事業費 3,000 千円
- ◎スマート田んぼダム整備事業
  - ・自動給排水システム等の整備：19.5ha、事業費 17,000 千円

## 5、 過去の豪雨発生状況

- ◎時間 20 mm 又は日 80 mm 以上の豪雨発生回数
  - ・直近 10 ヶ年で 44 回
  - ・平成 29 年 7 月豪雨では、日雨量 184 mm を記録し、下流の高梨地域付近で河川氾濫が発生した。

## ●実証による比較結果

- ◎水管理などの労働力においてスマート田んぼダム実証ほ場が従来の田んぼダム区域より約 40～60% 軽減された。
- ◎坪刈り実証により収穫量においては 450～520 kg/10 a と差が生じたが、施肥設計（肥料銘柄、施肥量、施肥方法、土づくり肥料の有無、追肥の有無）や栽培密度が異なるため単純に比較することは出来なかったが、田植日が異なっていたが出穂期はほぼ同じだった。そのため、水管理による生育には影響がなかったことが検証された。

## ●今後の課題

### ◎田んぼダムを実施するためには

- 1、ある程度の畦畔や溝畔の高さが必要。また強度も必要なため造成から年数が経過している場合は締固めや再形成などが必要。
- 2、下流区域への配慮など田んぼダムへの取り組みによる効果など広く伝えるための啓蒙活動が必要。
- 3、貯水したことにより畦畔崩落などが生じた場合の処理方法の取り決め。
- 4、大豆などの転作による畑地化されたほ場で取り組み可否の検討が必要。

### ◎スマート田んぼダムを実施するためには

- 1、施設投資が高額なため補助事業などの確保が必要。
- 2、各ほ場の栽培形態の把握が必要なため同じ経営体で団地化するなどし円滑な水管理が必要。
- 3、ランニングコスト（通信費やバッテリーなどの消耗品）の検証が必要。

## ●感想

◎田んぼダムの目的は、水田が持っている洪水緩和機能を人的に高めることで大雨が降った時に雨水を水田に一時的に貯留し、水田からのピーク流量を抑制して田んぼダム下流の農耕地や住宅地の洪水被害を軽減することである。

田んぼダムの特徴は、大雨の時に水田からの排水量を制限でき、現在使用している排水溝を大規模に改造しなくとも良く、通常の水管理もしやすい。しかし、面的に広がる水田の排水溝に調整板などを設置しなければならず、その設置する調整板などの値段は、そんなに高額でなくとも、使用する個数は多く必要なため初期投資が高額になる。また、水田の給水・排水をスマートフォンやパソコンでモニタリングしながら遠隔操作や自動で制御できるシステムなどを導入すれば、また、初期投資がかさみ、国や県などの補助事業の確保が重要となる。

当該地域でも、令和2年7月と8月の2度の豪雨により、河川の氾濫や下流域の地域で浸水被害を目のあたりにし、田んぼダムへの取り組みに比較的簡単に受益者の理解を得ることが出来たということだった。

天童市の過去の大雨の被害状況を元に浸水被害が最も想定されるのは、西側地域の蔵増地域や寺津地域である。天童市スポーツセンター西側の水田は、三郷堰改良区が管理しており、田んぼダムの推進を行っており、下流地域の地権者の理解は得られやすいと思うが、上流地域の人々は、大雨が降った場合でも浸水被害はあまり考えられないので、お金を掛けて、田んぼダムに取り組むかという、中々難しいと思う。大雨時の田んぼダムの活用の理解を得るための説明会や勉強会を根気よく続けて理解を得る必要がある。また、経費も掛かるので、補助金の確保が必須と考える。

本市でも、大雨時の浸水災害を軽減するためにも、田んぼダムの実施面積を増やしていく必要があるため、市、農協、関係団体、国、県

と連携して取り組むべきである。

## ■ 2、大衡村の企業誘致について

●大衡村は、人口約 5,500 人、面積 60.32 k m<sup>2</sup>で、宮城県のほぼ中央に位置し、村の中央部には国道 4 号、東に東北自動車道、東北新幹線が南北に縦貫している。山林原野等は総面積の 65%を占め、内 30%を占める北西部一帯は陸上自衛隊王城寺原演習場として利用されている。また、トヨタ自動車東日本が立地した所でもある。

### ●大衡村の概要

- 人口：50,520 人（令和 6 年 5 月末現在）
- 世帯数：2,106 世帯
- 面積：60.32 k m<sup>2</sup>
- 一般会計予算：49 億 4,500 万円（令和 4 年度決算）
- 財政力指数：0.762（直近 3 ヶ年平均）
- 高齢化率：30.9%（令和 4 年度末）
- 観光客数：347,256 人（宿泊観光客含む）
- 製造事業所数：46 事業所（5,338 人）  
製造出荷額⇒39,958,208 万円（令和 3 年センサス）
- 昼夜間人口比率：182.9%（県内 1 位）  
昼⇒10,700 人、夜⇒5,849 人

### ●工業団地概要

- 事業主体：宮城県土地開発公社
- 総面積：308.6ha
- 分譲面積：34.7ha
- 分譲単価：14,700 円～/m<sup>2</sup>
- 分譲開始：平成 13 年秋
- 都市計画：工業専用地域
- 建設規制：建ぺい率 60%、容積率 200%
- 用水：上水道（工業用水道）
- 排水：公共下水（汚水、雨水）
- 電力：特別高圧
- ガス：一部都市ガス（中圧）
- 誘致業種：重点 8 事業種の製造業
  - ・自動車関連
  - ・高度電子機械関連
  - ・食品関連
  - ・医療福祉関連
  - ・エネルギー関連
  - ・航空宇宙関連
  - ・船舶関連
  - ・木材関連
- その他：特例団地（緑化不要）村と環境協定を締結

●主な立地企業（直近 10 年）

○第二仙台北部中核工業団地

- ・トヨタ自動車東北（自動車製造）  
敷地内：トヨタ輸送（道路貨物輸送）  
敷地内：ベジ・ドリーム栗原（パプリカ生産）
- ・トヨタ紡織東北（自動車部品製造）
- ・ビューティック（自動車部品製造）
- ・中央精機東北（自動車部品製造）
- ・サンエイ（工場設備・重機メンテナンス）
- ・日進機工（工場設備メンテナンス）
- ・東横化学（電気部品製造）
- ・CKD（生産用機械器具製造）
- ・イズミテクノ（金属表面処理加工）
- ・豊田合成東日本（自動車部品製造）
- ・信和（金属切削加工）
- ・渡辺精機（金属切削加工）
- ・ニューテック（半導体製造装置用機器製造）

○大衡工業団地 A 地区

- ・郡リース（金属製品製造）
- ・タカキタ（農機具販売・メンテナンス）
- ・全農物流（米穀等倉庫）

○大衡工業団地 B 地区

- ・東日本エース（物流倉庫）

○その他の地域

- ・アイシン高丘東北（自動車部品製造）
- ・大五ロジスティックス（道路貨物輸送）
- ・フジプラダクション（自動車部品製造）
- ・アシノ電設（工場内電気設備メンテナンス）
- ・太陽電気（工場内システム機器メンテナンス）
- ・シンレキ工業（舗装材料・補修材料）

●県、村の優遇制度（補助金）

○村の補助金

- ・大衡村企業立地促進奨励金  
※補助金額：用地取得費×A 又は B 又は C（3 億円限度）  
A：25%製造  
B：20%物流等、建築 3,000 m<sup>2</sup>以上  
C：15%物流等で B 以外

※交付時期：着工から 5 年間で分割

○県の補助金

- ・みやぎ企業立地奨励金  
※投下固定資産額×3～10%（最大 40 億円）  
（固定資産額と雇用者数で交付率変）

●感想

◎大衡村は、人口約 5,000 人、面積は、天童市の半分程度で約 60 k m<sup>2</sup> という小さな村に、セントラル自動車、現在トヨタ自動車東日本（株）という自動車製造会社の大企業が立地したことで、部品調達、生産、物流、販売など多くのサプライチェーンが必要で、それに関わる関連会社が、近くの工業団地に新たに工場を立地した。

大企業の製造業を誘致することは、関連会社も近くに来るため、多変重要なことだと思う。天童市においても、大企業の立地を望みたい。

台湾が中国に軍事侵攻され、台湾の TSMC の生産がストップした場合、世界の半導体供給に大きな影響が出るため、日本政府も、莫大な補助金（4,760 億円）を出して、熊本県菊池郡菊陽町に JASM、また北海道千歳市にも、日本政府の補助金（3,300 億円）出し Rapidus を誘致した。今後、大衡村に台湾の半導体メーカーの PSMC が立地するというので、大衡村もますます色々な工場が立地すると思われる。

現在、朝夕の出退勤時の交通渋滞が発生しており、国道 4 号の拡幅を行っていたが、企業の人材不足や食・住、ビジネス環境の整備、仙台市や大崎市との交通体系の整備等、課題が沢山あるようで、今後の大衡村の変貌に注目したい。

企業誘致においては、県と連携しながらも県が主体となり誘致しているとのことだったが、村でも、会社四季報からランダムにダイレクトメールを送り企業誘致の営業を行っているようで、天童市でも参考にしたい。

## 会派視察報告書

清新会 武田 正二

I	7月4日	秋田県美郷町千畑土地改良区	・千畑土地改良区の田んぼダム事業について
II	7月5日	宮城県大衡村	・企業誘致活動について

## I. 美郷町千畑土地改良区の概要

昭和37年に設立。賦課面積1,805.1ha（うち畑52.7ha）。組合員数1,003名。職員7名。

## 千畑土地改良区の田んぼダム事業について

国の実証事業での「田んぼダム」は、全国で8地区、その中の一地区が美郷町千畑土地改良区であり、国100%の補助事業である。

## 《田んぼダム・スマート農業の実施ほ場を視察して》

クボタ製のWATARAS（ワタラス）を導入し、田んぼダムとスマート農業を融合。水管理については栽培スケジュールを設定し、1cm単位で水位をゼロにして貯水能力を高める。給水施設（用水側）20基、排水施設（排水側）38基、開口高175か所。過去に大雨で下流地区が浸水被害となり、導入を考え、国の実証事業に申請し、導入となった。2023年7月12日に大雨があり、田んぼダムが有効に作動し、被害を出さなかった。更に、この田んぼダム・スマート農業を融合しての米の収穫量は導入前とほぼ同じだが、労働力は4割～6割程度軽減されたこと等の説明を受けた。国の100%補助事業であるからこそ取り組めたと思うが、田んぼダム・スマート農業の実証の結果、課題はあるものの、収穫量・労働力等を考えれば、有効であり、水害対策にも大きく貢献したということなので、天童市としても国・県に働きかけ改良区と連携して田んぼダム・スマート農業を進めたいと思った。

## II. 宮城県大衡村企業誘致活動について

## 大衡村の概要

人口5,520人、世帯数2,106世帯、面積60.32km<sup>2</sup>、製造事業所数事業所、従業員数5,338人、製造品出荷額39,958,208千円（県内3位）、昼夜間人口比率182.9%（昼10,700人・夜5,849人）

## 企業誘致活動について

昭和49年に宮城県は、仙台北部中核都市構想を発表。59年に造成、63年より分譲開始。第二仙台北部中核工業団地は宮城県土地開発公社が事業主体で企業誘致が始まった。自動車関連の工場、電子機械などの工場が集まった。東北地方でも重要な工業地帯になっている。その後、半導体関連の誘致が決まった。企業立地の優遇制度も村はもとより県のバックアップは充実している。企業誘致活動も、県・村と共に行っており、特に県は力を入れているようだ。新規立地の際、企業と共に新卒者確保支援のため学校訪問を行っている。ハローワークとも協力体制をとっている。

## 《大衡村を視察して》

大衡村の印象はのどかな自然の中のまちという感じだった。「世界最大の半導体メーカーTSMCが進出」との話題で勇んで視察に臨んだ。

様々な企業誘致活動の説明を受け、知恵と工夫をされていることは大変参考になった。

ところが、これまでも大企業のトヨタ自動車関連工場が立地している大衡村に、さらに世界最大の半導体メーカーTSMCが進出することは喜ばしい反面、村としては急激な人口増加に対する対応に懸念もあるようだった。人口減少阻止・人口増加の施策の一つとしての企業誘致を考える私たちにっては意外なものだった。企業誘致の考え方も少し変わらざるを得ないと感じた。

以上

先進地調査等報告書

令和6年7月19日

天童市議会議長様

会派名 清新会

氏名 佐藤俊弥

下記により、会派において調査（視察）視察が終了したので報告致します。

記

期間	令和6年7月4日（木）～7月5日（金）
調査（視察項目）	1. 秋田県美郷町千畑土地改良区 田んぼダム事業について 2. 宮城県大衡村 企業誘致活動における現状と課題について
調査（視察目的）	1. 近年、大雨による被害が全国で多発している。流域の治水対策に貢献する田んぼダム事業を学ぶ。 2. 日本のシリコンバレーとも呼ばれている大衡村の企業誘致について学ぶ。
調査（視察内容）	1. 田んぼダム事業は、地域における水害を減らし下流域にも被害を減らせるようになるが、地域全体で取り組まないと良い結果が出ないと考える。またコスト面でも国の補助などがあるため利用可能であるがコメの収穫だけでは採算が不可能と感じた。 2. 山の中に世界の企業を誘致することができて、宮城県民の憩いの場（グランドゴルフ場）も造成できたことなどを伺った。
所感	1. 水害の発生した事のある地域などで積極的な事業展開を行い、良い結果を表すことができれば普及していくのではないかと。 2. 小川村長一期目から住民福祉向上に取り組んで未来へと繋げていく意気込みを感じとることができた。企業誘致は全面的に村井宮城県知事のリーダーシップの元、進められた開発事業に感動した。

以上

研修会等 参加報告書

令和 6年 7月 14日

天童市議会議長様

天童市議会

議員氏名 古澤義弘

下記により、研修会等に参加したので報告します。

記

研修会等名	スマート田んぼのダムの実証状況・企業誘致活動の現状と課題視察
主催団体名	清新会
日時	令和6年7月4日(木)～5日(金) 1泊2日
会場・場所	令和6年7月4日(木) 秋田県美郷町 干畑土地改良区 スマート田んぼダムの実証状況
内容等	<p>大仙美郷地区では、スマート田んぼダム 9.2ha、従来型田んぼダム 10.3ha・用排水路・用排水柵については、既施設を活用している。スマート田んぼダム整備事業として、自動給排水システム等整備実施面積 19.5ha、事業費 17,000(千円)である。</p> <p>本事業を契機として秋田県及び関係市町村が主体となって、田んぼダムの普及、推進を図り、ほ場整備実施地区を中心に規模を拡大していく予定であるとの事でした。</p>
感想	<p>スマート田んぼダム実施には施設投資が高額であるため、補助事業等の確保が必要になってくる。多面的機能支払交付金を活用し、田面排水柵や調整板の設置を、是非天童市内各土地改良区でも取り組んで頂きたい。柵の価格は約1か所 20,000円、調整板は1枚 1,000円位とのことであった。これらの設置だけでも、流域治水での効果が得られると感じた。</p>

<p>会 場 ・ 場 所</p>	<p>令和6年7月5日（金） 宮城県大衛村役場 企業誘致活動の現状と課題について</p>
<p>内 容 等</p>	<p>第二仙台北部中核工業団地概要として、総面積308.6ha分譲面積34.7ha、分譲価格14,700～1㎡にて、上水道、工業用水道、公共下水、電力、ガスを整備し、重点8業種の製造業を誘致している。県や村の優遇制度として、用地取得費や用件に応じて3億円を限度額として補助している。また、県としては企業立地奨励金として最大40億円の補助制度がある。雇用、求人对策としては企業独自の人材確保は厳しい状況にあるため、県、及び村でも新卒者確保支援のための学校訪問を実施しているとのこと。</p>
<p>感 想</p>	<p>人口5,520人、面積60.32平方キロメートルと、本市とは面積において、約半分であるが、そこに日本を代表するトヨタ自動車東日本等の自動車関連企業や半導体関連企業が名を連ねている。又台湾のP SMC半導体大手企業の進出も決定しているとのこと。誘致のきっかけとしては、県からの依頼も大きかったようで、しっかりと県と村との情報交換ができていると思ったし、本市でも今後整備される予定の新工業団地への誘致に関しても、関係団体と情報交換を密に行かなければと感じた。</p>

## 会派先進地視察等報告書

令和6年7月4日～5日

佐藤孝一

### 秋田県美郷町 田んぼダムの取り組みについて

H29年～R4年にかけて県営畑屋中央地区地整備事業を行い295.1haの区画整理を行いその際に1区画当たり1haの大区画化と用排水路整備がなされた。スマート田んぼダム整備事業補助金を活用し25.2haの実施面積のうち9.2ha（10.3haは従来型田んぼダム、5.7haは対象ほ場）で自動給排水システムを整備した。総事業費は2000万円。田んぼダムにより雨水が一時的に水田に貯留され流出量のピークがカットされる効果が見込まれる。

初期費用のコスト負担が大きいこと、圃場の畦畔が貯水に耐えることができる強度を維持するためのメンテナンスが必要、貯水による畦畔崩落時の処置方法の取決め、など課題はあるが今後田んぼダムの普及が全国的に進めばコストの低下なども見込める。本市でも現在三郷堰地区で田んぼダムの取組を行っているが、他地区でも従来の田んぼダムに加えてスマート田んぼダムの普及が図られることを期待する。

### 宮城県大衡村 企業誘致活動について

宮城県の土地開発公社による事業として隣接する大和町に昭和59年に第一仙台北部中核工業団地が着工され昭和63年分譲開始、その後平成9年第二仙台北部中核工業団地が造成着手され平成13年分譲開始し現在に至る。

第二仙台北部中核工業団地の企業による税収は全体の約37%、大衡村の人口の1%程度の雇用がある。現在も工業団地の造成は続いており新たな企業を誘致するための企業へのアンケート送付、企業訪問等を行っている。

工業団地に隣接して公園とパークゴルフ場があり観光客の誘致にも一役買っている。補助金としては宮城県の宮城企業立地奨励金（最大40億円）があり、大衡村では大衡村企業立地促進奨励金として3億円を限度として補助をしている。

また雇用求人関係では新規立地した企業とともに新卒者確保支援のための学校学校訪問を実施している。

この度の視察で強く感じたのは県と連携を取りながら開発をしなければ大規模開発は難しいのではないかと。県との良好な関係を築きながら優良な工業団地候補地を提案できないものかと考える。

# 天童市議会 清新会 視察レポート

滝口茂之

- 視察先 秋田県仙北郡美郷町 千畑土地改良区 および 宮城県大衡村 大衡村役場
- 日程 令和6年7月4日(木) ~ 令和6年7月5日(金)

## ◆ 視察先: 千畑土地改良区

### I. 概要

近年、地球温暖化の影響による集中豪雨の増加により、洪水被害が深刻化している。この課題解決策として、農林水産省が推進する「流域治水」の一環として、田んぼダムが注目されている。

秋田県仙北郡美郷町千畑土地改良区で実施されている「スマート田んぼダム」実証事業について、仕組み、効果、課題等を現地調査に基づき確認した。

### II. 仕組み

スマート田んぼダムは、クボタの「WATARASU」という水位制御システムを活用したものであった。具体的には、以下の流れで稼働する。

- 降雨情報収集:  
気象庁のオープンデータや独自設置の雨量計を活用し、降雨量をリアルタイムで収集する。
- 水位制御:  
収集した降雨情報に基づき、水田への流入量と排水量を自動的に制御する。
- 貯留・排水:  
大雨時には、田んぼに一時的に雨水を貯留することで、ピーク時の流出量を抑制する。その後、時間をかけてゆっくりと排水することで、下流域の洪水被害を軽減する。

### III. 効果

スマート田んぼダムの主な効果は以下のとおり。

- 洪水被害軽減:  
実証実験では、従来の田んぼダムと比較し、最大で約30%の洪水流量抑制効果が確認されている。
- 農業への影響抑制:  
湛水による農作物への影響を抑えるため、適切なタイミングで排水を行う機能を搭載している。
- 省力化:  
水位制御を自動化することで、農家の労力負担を軽減することができる。

### IV. 課題

スマート田んぼダム導入にあたっては、以下の課題も指摘されている。

#### 1. 実施者と受益者の不一致

上流で実施するほど効果が大きくなるが、その効果は下流に現れる。そのため、上流の農家にとってのメリットと、下流の受益者にとってのメリットが必ずしも一致するとは限らない。このことが、合意形成を難しくする要因の一つとなっている。

#### 2. 田んぼダム機能の維持管理

適切に維持管理しないと機能が低下したり、逆に被害を発生させたりする可能性がある。具体的には、排水口の点検や清掃、畦畔の補強、堆積土の撤去などが必要となる。これらの作業は、農家にとって負担となる場合があり、継続的な取り組みが課題となっている。

#### 3. コストと費用対効果

導入には、堰板や排水調整板などの設置費用や、維持管理費用がかかる。また、農家にとっては、水稻の減収などの損失も発生する可能性がある。これらのコストと、洪水被害軽減による効果を比較検討し、費用対効果を検証することが重要となる。

#### 4. 関係者間の連携

効果的に推進するためには、農家、行政、地域住民など、関係者間の連携が不可欠である。情報共有や意見交換の場を設け、互いの理解を深めながら、協働していくことが重要である。

### V. 感想

千畑土地改良区で初めて田んぼダムというものを知った。スマート田んぼダムそのものの考え方や仕組みは難しいものではないものの、導入や管理運用にあたっては課題が大きいと感じた。この視察の後に秋田県で線状降水帯が発生し、美郷町において一部浸水被害が発生したようである。災害をなくすためには、もっと多くのエリアで田んぼダムを普及させなければならないのであろう。

## ◆ 視察先: 大衡村役場

### I. 概要

大衡村は、宮城県唯一の村でありながら、近年多くの優良企業が進出している。この村はいかにしてこれほどの優良企業を誘致できたのか、またこの村ではどのような課題を抱えているのかについて視察を行った。

### II. 優良企業進出の理由

近年、宮城県大衡村への優良企業進出が活発化している。その主な理由として以下の点が挙げられる。

#### 1. アクセスの良さ

- 東北自動車道大衡 IC が工業団地に隣接しており交通アクセスが非常に良好である。
- 村には駅こそないが近隣の駅や空港へは、高速道路を利用することが出来る。

#### 2. 広大な土地

- 未開発の林野を有しており、農地の減少を引き起こすことがない。
- 村には第二仙台北部中核工業団地をはじめ、合計 8ヶ所の工業団地が整備されており、さらに開発も続いている。

#### 3. 充実したインフラ

- 光ファイバー網や上下水道、ガスの供給など、企業に必要なインフラが整っている。
- 特に水道については工業用水道が完備されており、村民生活への影響がないように配慮されている。
- 今後半導体工場の建設が予定されているが、工業用水道は現状でフルキャパシティのため、さらなる増強も計画されている。

#### 4. 積極的な誘致策

- 企業誘致にあたっては、固定資産税や取得税などの減免措置などを設けている。
- 会社四季報などから 1,000 社をピックアップしダイレクトメールを送り誘致にあたっている。
- 特に大手自動車企業や台湾の半導体工場の誘致にあたっては、宮城県知事が自らトップセールスに当たっていることが大きい。

#### 5. 人材確保

- 工業団地での村民の雇用状況はあまりよくなく、全人口の 1%程度しか就業していないらしい。
- ただ、仙台市や大崎市などの周辺都市から通勤圏内にあり、人材を確保することが出来ている。
- 今後、半導体工場が進出した場合、新たに 1,000 人が必要となるため、人材不足が懸念されている。

### III. 今後の課題

大衡村が抱える課題としては、以下の点が挙げられる。

#### 1. 人口減少

- 大衡村の人口は近年減少傾向にあり、現時点で 5500 人程度である(1996 年に 6159 人)。
- 少子高齢化も進んでおり、今後も人口減少が懸念されている。
- 村の多くは市街化調整区域であり住宅地開発が出来ないことが大きな理由である。

#### 2. 公共交通機関の整備

- 村内には公共交通機関が少なく、自家用車に頼らざるを得ない状況である。
- 特に、若者や高齢者にとって移動手手段の確保が課題となっている。
- 国道 4 号線が通っているが村内は片側 1 車線であるため、現在急ピッチで 2 車線化に取り組んでいる。

#### 3. 商業施設の不足

- 村内には大型商業施設がなく、買い物に不便な状況である。
- 特に、若者にとって魅力的な商業施設が少ないことが課題となっている。
- これも市街化調整区域であることが大きな理由であるとのことであった。

### IV. 感想

大衡村では、これだけ優良企業が進出しているにもかかわらず、急激な人口増に対する懸念もあるようであった。また、半導体工場の進出とともに台湾の方々も日本に来るわけであるが、大衡村には住まずに仙台市に住居を構えることになるだろうとのことであった。小さな村に外国人が居住すれば、様々な問題も起きかねないわけで、何よりもこのまま平穏な状態を望むという感じであった。

ところで、半導体工場は他の工場に比べて水と電気を非常に多く必要とする。電気については女川原子力発電所の再稼働が今年予定されており、宮城県が再稼働に前向きである理由がよく理解できた。

宮城県への企業進出が加速している状況を見るにあたり、山形県から若者が吸い寄せられやしないものかと危機感を感じた。

以上